

11月選抜

令和2年度 人間発達教育専攻  
教育コミュニケーションコース 試験問題

受験番号					
------	--	--	--	--	--

# 令和2年度 人間発達教育専攻

## 教育コミュニケーションコース 試験問題

### 注意事項

1. 問題Ⅰ～問題Ⅲのすべてに解答せよ。
2. 解答に際しては、解答用紙の問題番号に合わせて、解答用紙1枚につき1問題の解答をすること。

問題Ⅰ 第二次世界大戦後、占領下の日本では教育の民主化が進められた。その過程で大学に一般教育（general education）が導入された。それにより、ある特定の職業に就くための職業教育でもなく、専門家になるための専門教育でもない、市民を形成するための教育が大学で行われることになった。そうした一般教育の理念と制度について論述せよ。

問題Ⅱ 「反教育学」とは、1960年代後半の学生紛争以降に展開された反権威的主張の流れのなかで姿を明確にしてきた、近代教育に関する批判的な考え方や立場のことをいう。その極端な主張は、「教育こそが人間をだめにしている」というものであった。  
このことに関連して、次の問い（問1、問2）に答えよ。

問1 人間形成において「教育」や「学校」を必要不可欠と考える論者との議論の場面を想定し、「反教育学」的立場からの反論を述べよ。

問2 問1での論述に対して、あなた自身の考えを論述せよ。

問題Ⅲ ワトソン（Watson）やスキナー（Skinner）をはじめとする行動主義心理学者たちは、行動に関連づけた形で報酬や罰を与えるなどの環境を適切に用意することで、適切な行動をする人間を育てることができると考えた。自分や他人の行動をコントロールするために何かのご褒美を用意するなど、その原理を応用した環境設定の工夫は、今でもさまざまな場面で見られる。だが、「環境を適切にコントロールすることでどんな人間にも育てることができる」という行動主義心理学者たちの主張については、さまざまな観点から反論が可能である。主張に対する反論を、論拠を明確に示しながら述べよ。